

旧大分合同銀行社屋に関する所見

- 所在地：大分県豊後高田市中央通字横町 691 番地
大分県豊後高田市高田字宮町 824 番地
- 建築年代：1933(昭和8)年9月18日
- 建築構造：木造瓦葺2階建

『旧大分合同銀行高田支店』は大分県豊後高田市の中心市街地に位置する近代銀行建築で、『大分銀行百年史』によれば1933(昭和8)年9月18日に新築されたことが明らかであるとされる。以来70年間にわたって銀行や信用組合の支店や本店として使用され続けたこの建物は、中心市街地のランドマークともなっており豊後高田市民から広く親しまれている。

『旧大分合同銀行高田支店』の前身は1888(明治21)年4月に設置された第二十三国立銀行高田出張所と大正初年に設置された豊後銀行高田代理店であり、1920・1921(大正9・10)年6・11月にそれぞれ商号変更や合併などによって二十三銀行高田支店と大分銀行高田支店に改称されたのち、1927(昭和2)年10月にこの2銀行が合併。二十三銀行高田支店の所在地であった現在地に支店を併合して、大分合同銀行高田支店が誕生した。現在地にこの建物が新築されて以降は、1953(昭和28)年1月に商号変更によって大分銀行高田支店と改称されたのち、1961(昭和36)年8月に新支店へ移転。以後一時的に空き店舗となったものの、翌年7月に1956(昭和31)年7月設立の高田信用組合が本店を移転。2002(平成14)年9月に合併によって大分県信用組合高田中央支店と改称されたのち、翌々年11月に新支店へ移転するまで使用され続け、近・現代地方社会への銀行制度の展開を物語る歴史的景観を今に留めている。

この『旧大分合同銀行高田支店』の外観は、切妻造で平家建の前部と入母屋造で2階建の後部を接合して端然と軒が組みあう瓦葺の屋根のもと、正(東)面は漆喰塗の白壁に瓦葺の下屋を掛けて石貼の腰壁を配し、左右には正面と同様の様式で白壁に石貼の腰壁を配する瓦葺の卯建が並ぶなど、伝統的な和様建築でありながら、半円アーチの高窓や下屋のアーチ装飾、両開きのドアや石貼のポーチなどに近代的な洋風意匠が凝らされる。側(南・北)面と背(西)面は昭和30年代の町並みが残存する商店街の家並みに密接して望見できないが、中心市街地にはこの建物のほかにも1921(大正10)年建築の『旧共立高田銀行』、2009(平成21)年8月に登録有形文化財となった昭和前期建築の『旧共同野村銀行』、1961(昭和36)年10月建築の『旧中津信用金庫高田支店』が建ち並び、近・現代銀行建築のストリートミュージアムと呼ぶにふさわしい歴史的景観を今に伝えている。

このような歴史的・景観的価値を有する『旧大分合同銀行高田支店』だが、2004(平成16)年11月に大分県信用組合高田中央支店が新支店へ移転して以後は一時的に空き店舗となったものの、2001(平成13)年9月から中心市街地の商店街で昭和30年代の町並み再生をテーマとする豊後高田“昭和の町”づくりが着手されていたこともあって、2005(平成17)年8月に豊後高田市の所有となるに至った。2008(平成20)年4月には蔦が生い茂る外観はもとより格子模様の天井や勘定台・金庫室などの内装も当時そのままに活用しつつ、昭和の映画上映やポスター展示をおこなう『豊後高田“昭和の町”展示館』として公開され、市民のみならず年間30万人を超える全国各地の観光客からも広く親しまれている。

参考資料 豊後高田市史編集委員会『豊後高田市史 通史編』豊後高田市・1998(平成10)年8月発行
大分銀行百年史編集委員会『大分銀行百年史』大分銀行・1994(平成6)年1月発行

平成21年 8月31日

豊後高田市文化財保護審議会委員 金谷 俊樹